

高田  
本

山  
だ  
よ  
り

平成三十五年には親鸞聖人生誕  
八百五十年をお迎えします



親鸞聖人降誕会・御参廟

110

## 檀信徒研修会報告

春の檀信徒研修会が五月十七日に開催されました。六十四回目を迎える今回は研修会場を高田会館ホールから御影堂に移して、いつもとは少し違う雰囲気の中で行われました。



開会式で法主殿のお言葉をいただき、引き続き講義が行われました。

はじめに、本山知堂(本山でお勤めをする職)の北畠大道師によりお参りの作法や莊嚴についてお話をいただきました。

次に研修会助言者のおひとりである佐波真教師に高田派の歴史について、親鸞聖人の生涯を中心にお話をいただきました。

高田派鑑学の清水谷正尊師には「不退の位すみやかに」という講題でお話いただきました。

日ごろよくお称えしているこの御和讃は、要点をまとめると、「不退の

位を早く得たいなら、お念仏申しなさい」ということです。清水谷師は松山智光先生の言葉を借りられて、「お念仏申せば、本当の幸せになれる」と話されました。

昼食を挟んでいくつかの会場にわかれて分散会がありました。ここでは、「本当の幸せとは何か」ということについて語り合いました。

それぞれ、より一層の研鑽をつまれたことと思えます。

最後に岐阜善教寺坊守の魯あす香さんのエレク トーン演奏があり、御影堂いっぱいには仏教讃歌など、多彩な曲の音色が広がりました。

次回、秋の研修会(十月二十五日)へのご参加をお待ちしております。



親鸞聖人ご旧跡を訪ねて

第四回 蕎麦喰い

比叡山で修行の日々を  
すごされた親鸞聖人。

前回、六角堂に百日参

籠される道沿いのご旧跡

を紹介しましたが、今回

は参籠中の留守に身代わ

りになったと言われている

親鸞聖人像が安置され

ている場所をご紹介します。

ひとつは比叡山の無動

寺谷大乘院。叡山の中で

も東塔、西塔、横川を訪

れた方は多いかと思いま

す。私は無動寺谷を最近

まで訪れたことがありま

せんでした。

坂本ケーブルの山頂駅

から山道を下ること八百

メートルほど。鍛えたり

ない脚には少々キツイく

だり坂です。勿論、帰り

は同じ道を登ります。

行き着いた先にはいく

つかのお堂が並ぶ無動寺

谷のエリアがあり、その

一つに蕎麦喰いの親鸞聖

人と親しまれる坐像が安

置されています。

もう一つは、京都市街

三十三間堂隣にある法住

寺に安置されています。

蕎麦喰いの伝承が私た

ちに伝えることは何なの

かと、往時に思いを寄せ

ながらお参りするご縁を

いただきました。

(山川蓮生)



無動寺谷大乘院

汗を流して清掃奉仕

ご奉仕ありがとうございます。(敬称略・奉仕日順)

三月 誓覚寺・蓮性寺・成泉寺・了性寺・清涼寺・迎接寺・西蓮寺

四月 法専寺・最勝寺・信光寺・正法寺・青龍寺

五月 林昌寺・正因寺・壽善寺・専照寺・花山寺・井福寺

その他一身田地区のみなさんによる寺内町清掃も行われました。

親鸞聖人のもとで汗を流しませんか。ひとりひとりの力が合わり本山が護持されています。お檀家さま・お同行さまだけではなく一般の団体の方にもご来山いただいております。お申し込み、お問い合わせは宗務院庶務部までお願いいたします。



法住寺

WEB VERSION

WEB VERSION

# 「縁起」

釈尊シリーズ⑦



釈尊しやくそんが「佛陀ぶつだ」  
となられたその目覚めを  
「縁起えんぎの法」として明ら  
かにされました。ではそ  
の法とはどのようなもの  
だったのでしょうか。

起おこが良い・悪い」という  
言葉を使うことがありま  
す。しかし仏教でいう「縁  
起の法」とは良し悪しを  
離れ、現実げんじつに起こってい  
る事柄のすべてに因いん（そ  
うなる可能性）があり、

それが縁えん（環境や条件、  
出あい）にふれて互いに  
関係し成り立っているとい  
う道理どうりなのです。自分  
のいのちさえもこの道理  
によって与えられたもの  
なのです。

それは私たちが今ここ  
に生きているというの  
は、過去のすべての因縁いんねん  
によって生きているので  
す。親の親、その親の  
親と数えると気が遠くな  
るほどの因縁のすべてが  
私の今につながっていま  
す。その一つが欠けても  
今の私はありません。ま  
た、今まで出あった人、  
食しょくしたものの、身に着きけ  
たもの、使ったものは数え  
きれないほどです。私と  
いう存在は私を取り囲む  
すべてが私と関かかわりを持  
ち、互いに影響しあいな

がらつながっているの  
です。そして、私たちは縁  
（出遇でであい）を選べません。  
出遇った事柄や人が私を  
教えてくれるのです。関  
係の中であらためて自分  
に出遇うのです。

釈尊はそのような人間  
の存在の事実じじつに目覚め、  
出家しゅつげの動機どうぎとなった老病らうびょう  
死しという現実が苦しみの  
原因げんいんではなく、老おいる縁  
が調しらえば老い、病やむ縁が  
調しらえば病み、死ぬ縁が調  
えば死んでいくいのちを  
生きているにもかかわら  
ず、いつまでも若くて元  
気で生きたいと執着しやくちやくす  
る、私の思いをかなえよ  
うとして自分の欲望の追  
求きうに生きていくところに  
人間の苦しみの原因が  
あることを明らかにされた  
のです。そのことは同時

に、老いること病むこと  
死ぬことを、受け入れて  
いける生き方が開かれた  
のです。

このような生き方は釈  
尊だけに開かれるもので  
はなく、道理に目覚める  
ところに誰においても開  
かれる生き方なのです。

教学院第三部会

WEB VERSION

当寺の境内に置かれた甕かめの中には数匹の金魚が泳いでいます。子供たちは、毎日のようにその甕を覗き込みながら「金魚さん！金魚さんー！」と元気に呼び掛けています。しかし、ある日その中の一匹が死んでしまいました。子供たちの悲しみは大変なものでした。

私たちは金魚のお葬式をしました。境内の片隅に穴を掘って埋葬し、墓標のかわりに石を置き、お花を供え、手を合えました。「ねえ、お父さん、金魚さんはどこへ行ってしまったの？」長男が聞いていました。「金魚さんはお浄土に行ったんだよ。みんなと一緒に念仏しようね。ナンマンダブツ、ナンマンダブツ・・・」と、私は当たり前のように答えました。



ところが翌日、長男が駆け込んで来て言いました。「お父さんのうそつき、金魚さんはお浄土なんかに行っていないよ。お墓の下にまだいたよ。」きつと好奇心からお墓を掘り返したのでしょうか。

私はこれに対して、何も答えることが出来ませんでした。死んだ金魚がまだ土中にその姿を留めていること、命尽きて死んでしまったということを手く説明することが出来なかったのです。私は長男の問いに、ただ反射的に「お浄土に行った。」と答えただけであって、「いのち」という

ものを、簡単に「わかったつもり」にしていたのです。

ここに僧侶として、日々、生死の営みの中で暮らしているにもかかわらず、「何ひとつ身に付いていない」という事実を思い知らされました。まるで喉元に包丁を突きつけられたような心持ちです。

私は「うそをついてごめんね。お父さん、何にもわかってなかったよ。」と子供たちに謝りました。日頃、子供たちに「うそをついてはいけないよ。」と、平気でうそをついていたのは私自身に他ならなかったのです。

子供たちの疑問により浮き彫りになったうそつきで偽物の私の正体、どこまでも思い・はからいで生きるこの私に、仏様が問いかけて下さった得難いご縁でございました。

南無阿弥陀仏

WEB VERSION

WEB VERSION



本寺如来堂・中学生教化合宿

■三月二十七日から二十九日

**中学生教化合宿** 毎年

恒例の中学生生合宿で栃木の本寺を訪れました。デイブニーシーや羽田機体整備工場などにもたちより、充実した春休みになったのではないでしょうか。

■四月八日

**釈迦三尊佛法会** お釈

迦さまの誕生日にあわせて、法主殿が山門に安置されている釈迦三尊さまにお参りをします。この日だけは一般の方も山門に上がってお参りいただける特別な日です。

■四月二十三日

**はなまつり** 子どもた

ちが祝うお釈迦さまの誕生日。今年も白象を引いて晴天の下、寺内町をぐるっと行進しました。

あわせて、写生大会の表彰式も行われ高田本山賞を善福寺の高沼瞳さんが受賞いたしました。

■四月二十五日

**護持会追弔会** 本山護

持に力添えをいただいで

■四月二十九日

**興学布教研究大会** ど

なたでも聴講していただくことができる大会です



はなまつり



興学布教研究大会

が、内容は少々難しいかもしれませんが。

「現代における寺檀関係の研究 ―真宗伝道の視点から―」浄泉寺衆徒・戸田栄信師、「『西方指南抄』の成立過程と真仏の筆跡」青巖寺住職・清水谷正尊師、「他力は不思議」真楽寺住職・鷲山了悟師の三名にご講話いただきました。

お説教とは違う学問としての真宗に興味をおぼえたら、こちらの大会にもご参加ください。毎年同じ四月二十九日に開催されています。



山門楼上・釈迦三尊佛法会



召見殿・護持会追弔会

こんな行事がありました

WEB VERSION

WEB VERSION



法主褒賞



安楽庵・降誕会



晨朝・教師検定講習



聞法会

■五月三日から五日

教師検定講習 高田派

住職に必須となる教師資格を得るための講習が行われました。

泊まり込みで行われ朝のお参りにも揃って参詣しています。僧侶として布教を通して「南無阿弥陀仏」のみ教えを伝える

ための講義が三日間続きます。

■五月六日から八日

第二十三世堯祺上人

二十五年忌法会

先々代御上人の御年忌をおつとめました。

■五月二十一日

親鸞聖人降誕会 宗祖

親鸞聖人の誕生を祝う法

会です。平成三十五年には生誕八百五十年をお迎えします。

式典では、本山褒賞や男性の祖師寿のお祝いもありました。

また、雪の報恩講で延期になっていた法主褒賞も行われました。長年、栃木の本寺の輪番をつとめられています鈴木明信

輪番が法主褒賞を授与されました。

どうぞ、皆さまも親鸞聖人建立の栃木の本寺にお参りください。

当日は、安楽庵の茶席

も開けられて、晴天の下で、宗旦古流のお茶を楽しむことができました。

■五月二十二日

聞法会 月例で行われ

ている女性の為の法話会です。講師に愛知から大河戸悟道師をお迎えして楽しく親しみのあるお話をしていたただいています。いつからでも参加いただけますので、教学部までお問い合わせください。

■五月二十六日

布教伝道研修講座 高

田派の僧侶向けの講座ですが、一般の方の聴講も可能です。今回は広い御影堂で開催され、より実践的な雰囲気での研修となりました。次回は七月二十五日の開催です。



布教伝道研修講座



六月四日の第五十三回高田派婦人連合大会を前に、聞法会のみなさんにおみがきや御影堂の清掃をしていただきました。



花の盛りの一身田  
もうすぐ蓮の季節です

子どもの頃、テレビから流れる京都の大文字焼き（五山の送り火）や、ナスやキウウリのお盆飾り（精霊牛・精霊馬）、グレープの歌にある『精霊流し』などは、物語の世界のように思えました。

四日市のお寺に生まれた私にとって、本堂で勤まるお盆参り（歓喜会）と、初盆の廻り灯籠が、お盆の全てでした。盆踊りもお寺とは関係ない、町内会のイベントだと思っていました。

二十年前に本山に勤めて、はじめて同じ三重県内でも様々なお盆の過ごし方があることを知りました。

現在、日本各地で行われているお盆行事は、仏教だけではなく、古来の祖霊信仰などもまざったものですから、真宗の教義では説明できないものなのかも知れません。

誓覚寺住職 栗迺 隆興

四月の桜にはじまり、五月には藤、牡丹が咲き乱れます。春は花粉に苛まれないながらも、花の盛り。賑やかな境内です。

まもなくすると蓮も咲き始め、見頃を迎えます。

そして、早いところでは、七月になると歓喜会やお盆参りが始まり、本山では八月に歓喜会がおつとめされます。

暑い盛りですが、本山にもお参りください。



今年も沢山のクラシックカーが高田本山の前をパレードしていきました。人々よりも車の年齢の方が高いような気がします。ラフェスタプリマベール、素敵なイベントですね。

さて、車の運転をされる方も多いと思います。が、ブレーキの踏み間違いやなど、改めて運転にはご注意を。

● 行事案内

七月二十五日

第一回布教伝道研修講座

七月二十七日・二十八日

小学生教化合宿

歴史まるごと体験塾

八月一日～五日

第91回仏教文化講座

一日 法主殿御親講

二日 小山聡子 先生

三日 藤本浄彦 先生

四日 ケネス田中先生

五日 堤 正史 先生

八月十四日～十六日

歓喜会

高田本山  
Senjuji

三重県津市一身田町  
2819  
真宗高田派本山専修寺

寺院名